将来の世代に鎧潟が残せるもの… 1. 水と近い人の暮らし

2. 鳥や魚や植物を身近に感じる生活

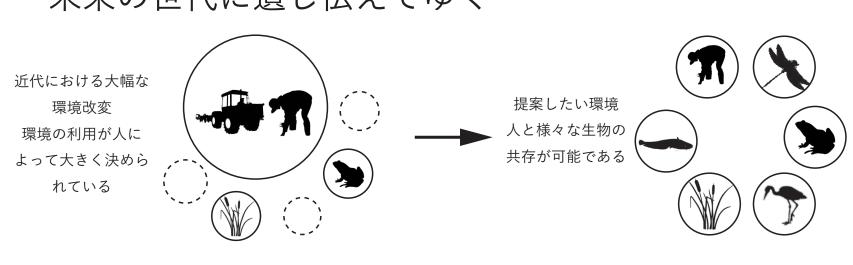
3. 農業生産と多様な生態系の維持を同時に 実現する環境のモデルケース





コンセプト:人と様々な生物の共存 「水面の全面復元=鎧潟の再生」とは限らない…

→ 身近な自然を再生する必要性 → 排水機場、田んぼ、水路、川、家の前などの小さな 環境の変化を起こし、それを繋げることで、 潟が培ってきた風景と文化を鎧潟周辺地域に広げ、 未来の世代に遺し伝えてゆく…



デザインの手法 生物の「すみか」

生物の「みち」

植物

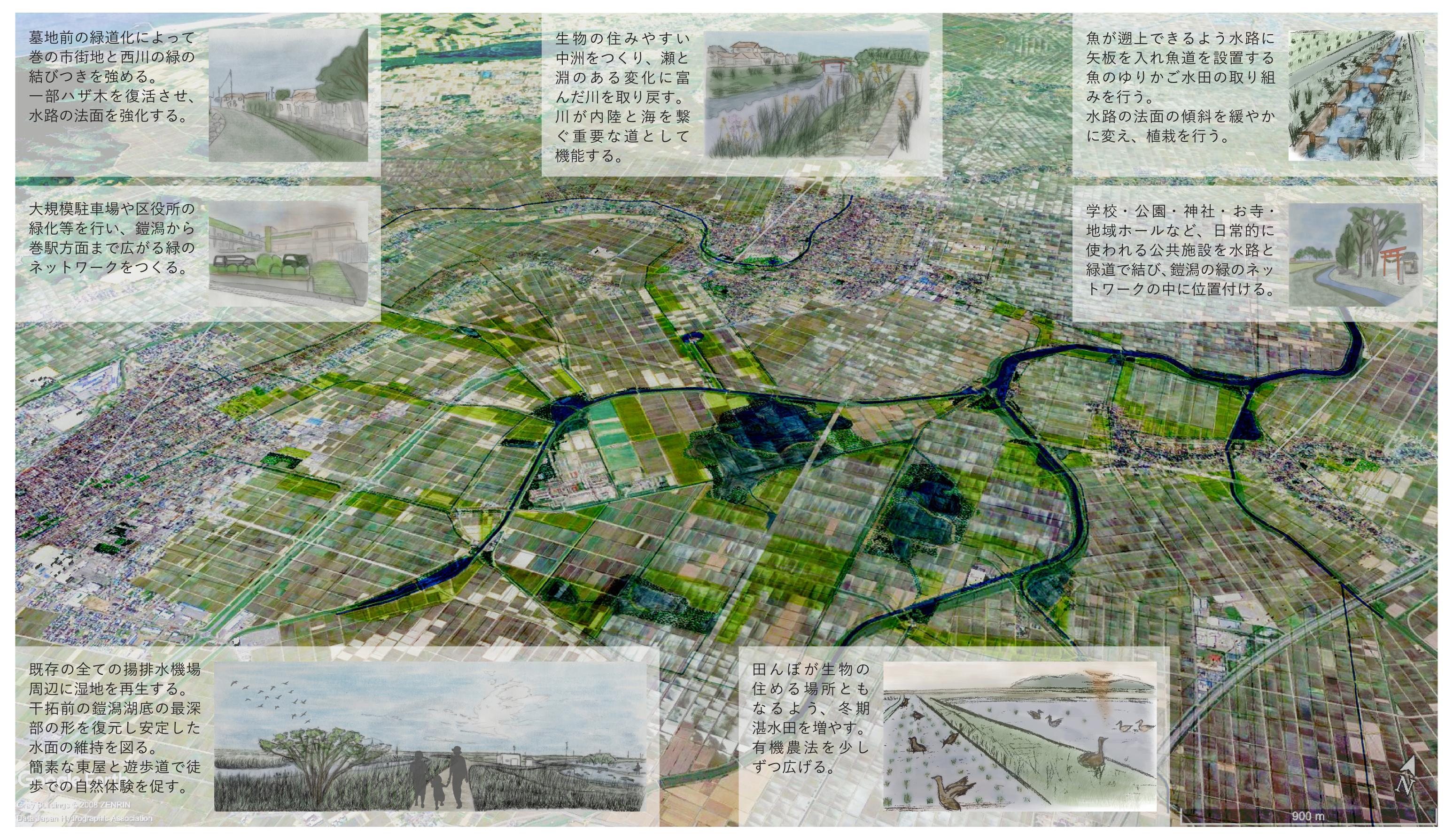
生物の生きられる場所を効果的に増やす

鎧潟周辺の環境に合わせてハビタットを結ぶ

生物と人が交わる「ひろがり」 水のネットワークの下生物と人間が共存する

人間の居住と生産活動が 生物のすみかをつくる 生物の拠点と人の暮らしの 環境を支配している 拠点をみちで繋ぐ

様々な生物と人間が 共生する場が形成される



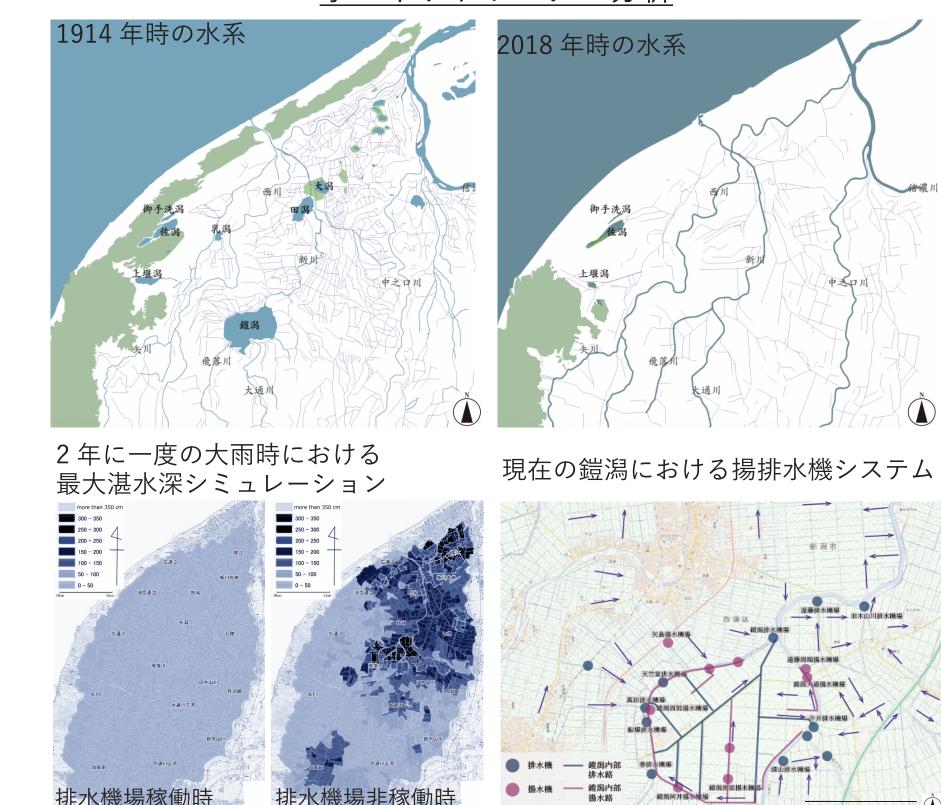
鎧潟横断面図

オオバンシ チョウ カタツムリ タニシ ろトンボ オオハクチョウ サギ ヒト ミミズ ウキゴリ ネコ ハゼ メチドリ ゲンゴロウ^ス カマキリ セミ ツバメ ヨシゴイ オナガガモ サシバ ドジョウ ウナギ タイリクバラタナゴ カメ 秋晴れの日に大通川の堤防の上を散策する親子連れ

夕暮れ時に飛落川沿いを下校する小学生達



生物の生息域の分析 鎧潟の生業の分析 生物が生息しやすい環境のための要件 作流れの歴史 場所 地名(青がけ:作流れしやすい場所) ・崖面を残す ・中洲や浮島などの干潟的緩衝地がある



排水機場は…

川の水系の接点

揚排水機場付近

を湿地化し、多

近くで生きる

風景をつくる

様な生物が人の大雨・洪水・出水時

農閑期、乾季

農閑期、雨季

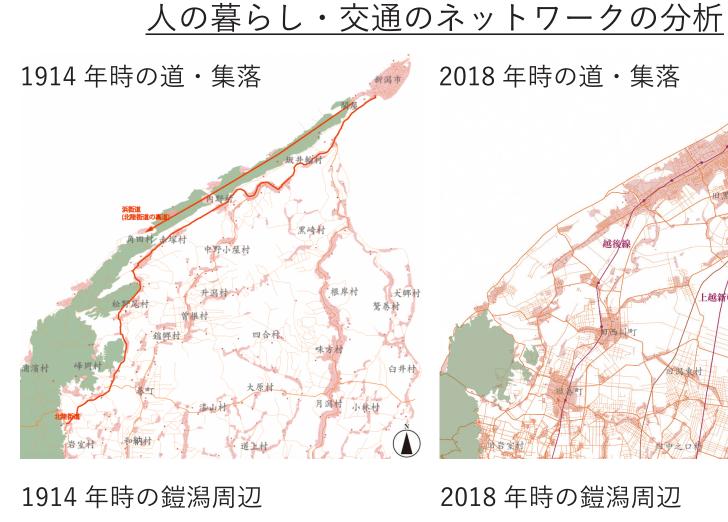
海の水系と

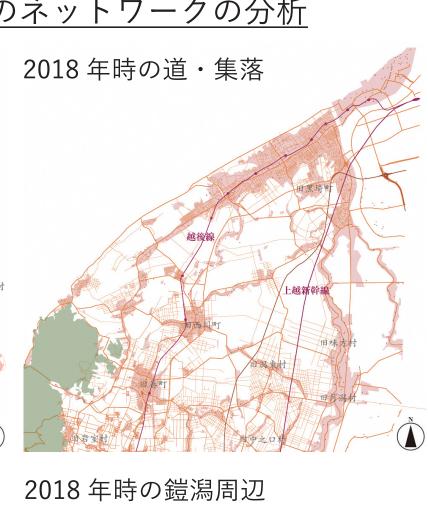
暮らしと

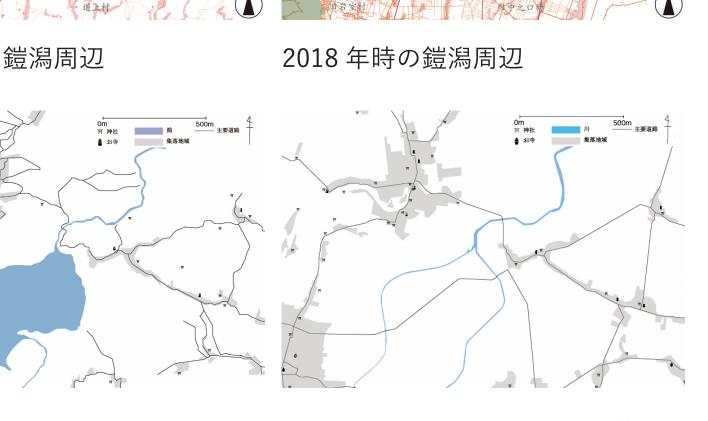
自然の接点

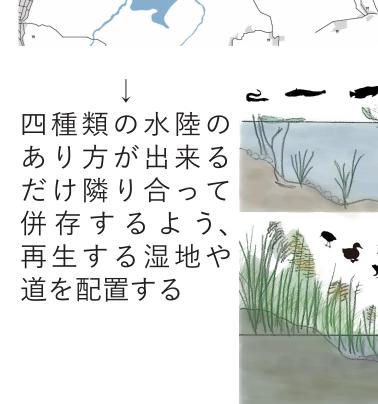


湿地帯

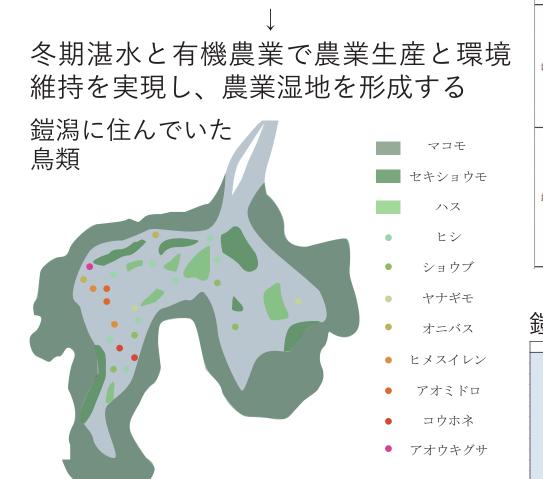












・水田と川のアクセスが容易である

・淀み,水域,小さな流れ込みがある

・ヨシなどが生息できる水位がある

(護岸保持機能・水質浄化機能)

・淵や水深のある底層がある





